

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200759		
法人名	有限会社 花音		
事業所名	グループホーム 花音 (Aユニット、Bユニット合同)		
所在地	静岡市葵区水道町126-1		
自己評価作成日	平成26年1月27日	評価結果市町村受理日	平成26年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigvoCd=2294200759-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階		
訪問調査日	平成26年2月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設、入居者とも常に明るく、楽しく、安全、安心に過ごせ、思いを大切にした環境作りを職員全員で考え行動し次につながる為の取り組みをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年度からの課題としてきた職員スキルの向上として、研修運営に試行錯誤を重ねた結果、ミーティングの時間を有効活用する「30分ミニ講座」が奏功しています。専門業者から排泄用品の使用方法についてアドバイスを受けたリ、マッサージ師による『利用者に喜ばれる気持ちのいい手浴・足浴』研修では、入浴中のマッサージやツボについて実践的な手法を学んだことが活かされ利用者満足度に直結し、職員の知識欲も高まっています。また、レクリエーションのレパートリーを増やすことにも力を入れ、年間計画を立て職員を複数担当としたことで協同作業の場が増え、行事開催に向け利用者と共に楽しむ姿が見られています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づく意義を実践の中で認識し、職員間で共有を確認している。	玄関を始め目につくところに掲示してあります。特に唱和はしていませんが、外部講師として招くマッサージ師からも気づきが伝えられ、理念の実践に向けてケアの質向上への意識が高まっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	定期的に地域の方達のボランティアの催しで交流を深めている。	職員が自主的にボランティア訪問の企画をしたことで回数も増えており、地域の人たちで結成する『ナツメロの会』は毎月の訪問があります。また地区の祭りに出かけ、地域リーダーへの働きかけも行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の催しには率先して入居者と共に参加して地域貢献を目指している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設より適正な報告、ご家族、包括様からの意見交換の中での適切な評価、意見で会議内容の充実化を図っている。	本年度は2ヶ月ごとに定期開催され、地域包括支援センター職員の出席もあります。これまでは活動報告が主でしたが、ひやりはとでの改善状況を伝えることで、誠意ある姿勢に理解と安心の声がもらえています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議になるべく出席していただけるよう市や包括の担当者に依頼をしている。月1回の市介護相談員の訪問も継続していただいで相談、アドバイスをお願いしている。	市への継続的な働きかけもあって年度初めには運営推進会議への出席が叶い、地域包括支援センターからはケアや取り組みへの具体的アドバイスもあります。介護相談員の訪問もあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	教育による知識を実践に活用しながら正しいケアに取り組んでいる。	定期的な研修体制はありませんが、職員は身体拘束にあたる具体的な行為は理解できています。落ち着いた利用には声掛けの工夫を示唆し気づきを促しています。統一できていない部分もあり、浸透に向けての意識改革が課題となっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修の中で虐待の防止の徹底を共有し、職員間での細心の注意に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設の中にいずれ必要とされる方がいる為、市の生活保護担当者との面談で検討をお願いしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族様には後に不安が残らないように十分な説明を行い、確認不足にも注意を怠らない事に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議及び来所時に率直な意見交換が出来る時間を設け運営に反映している。	運営推進会議に参加の家族には避難訓練の報告や、終末期における疑問にも丁寧に応じている様子が議事録から確認できました。面会も多く、その都度管理者から近況報告を行って信頼関係の構築に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの他、日々職員の意見や提案に耳を傾け運営に反映している。	講師を招へいしての勉強会は刺激も多く、ミーティング内のミニ講座は好評で今後も継続したいとの声があがっています。本年度よりレク係を設け、役割が明確になったことでアイデアが豊富に出されています。	職員のスキル向上として、ミニ講座が定期的で開催されることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の環境整備には常に念頭におき改善点の状況把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	専門業者による研修、勉強会を設け正しい知識を得る事で固執しないケアの見直しを図り、質を高めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修を取り入れ外部との交流を設け、質の向上を図る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意志を尊重し、状況、状態の把握に努め、細かな配慮を怠らない信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意思確認をふまえ、状況、状態の把握に努め、細かな配慮を怠らない信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要性に応じたサービスの確立を行い、適切な支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支えあう生活の場を意識し一方的な介護支援にならないよう努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と共に本人を支えていく関係性を築く為に一方本位的にならないよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外部との関係性を保つ為、来訪者には気持ちよく来て頂けるような環境作りに勤めている。	近所から友人や知人の訪問もあり、「一緒にお茶したいけどいいかな」と近くのファミリーレストランでのひとときを楽しむこともあります。家族と共に馴染みの床屋に通う人や墓参に出かける人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格を把握し、より良い関係性を築く為の配慮に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じた相談や支援は利用者のみに係わらずに対応を心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を尊重し、希望に沿う検討をしている。	一日の大半をフロアで過ごすため、本人のペースに合わせた休養や生活リズムに注意しています。担当制はとっていませんが、アプローチによって表出された言葉や表情から思いや意向を推し量っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	あらゆる視点から正確な情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの支援から観察、記録より現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	専門職を含むチームケアで情報を把握し、現状に即した介護計画を作成している。	モニタリングは3ヶ月に一度職員が、医師や看護師、マッサージ師など多職種の意見を取り入れ、見直しは半年毎に各ユニットのケアマネージャーが行っています。家族には電話や面会を通して要望を聞いています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の情報を共有し、気づきや工夫を実践に活かしながら介護計画の見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化するニーズの対応には柔軟な姿勢で取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を最大限に活用できる体制を作り、有意義な暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療を受けられるように個々のかかりつけ医と事業所で密な連携を図られるよう努めている。	かかりつけ医を継続している人が3割ほどで、受診は家族の協力をお願いしています。協力医の往診が月に一度、勤務する看護師と訪問看護とで週2回の健康管理があり、異常の早期発見や処置に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職は適正なケアをする為の情報共有しお互いの専門分野が活かした支援を努める。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要な情報が提供出来る様に適切な準備に努め、病院関係者と密に情報交換できる対応に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前に本人、家族と方針を十分話し合い、情報共有し、チームケアでの支援に取り組んでいる。	契約時に重度化に係る説明していますが、事業所としてできる限りの受入れをする方向で、状態変化の都度家族と話し合い、医療行為が発生する場合は医師や看護師、家族の協力体制を含めて判断し、状況に応じた体制を整えて取り組んでいく考えです。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修、勉強会、訓練等を行ない、再認識して、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年計画を基に5回の訓練を実施し、実践力を身に付け災害対策に努めている。	消防署の指導も仰ぎ、消火器取扱いについてのアドバイスをもらったり、毎回出火場所の設定を変えて訓練を重ねた結果スムーズな職員の動きがみられるようになっていきます。	地域とは引き続き連携を図り、相互の協力体制を築くことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき一人ひとりの尊厳を大切に した対応を心がけている。	呼び名は「さん」付けが基本ですが、家族 からの聞き取りで「○○ちゃん」「おとうさん」と、 その人に一番響く呼び方を優先しています。 入浴では羞恥心に配慮し、同性介助の希望 にも応じています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	意思を尊重した言葉かけや対応で本人の思 いで自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの日々の体調などを把握し、本 人希望に沿った支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	衣類等の整理、清潔保持の管理を行い、そ の人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	おやつ等に食レクを用い利用者と職員が一 緒に準備や食事、片付けをする機会を作っ ている。	主食以外はケイタリングを利用しています。 新たにメニューボードを設置し食事前に読み 上げて話材としています。月に一度は手作り おやつでどら焼きやたこ焼きもあり、誕生会 や行事では寿司が大人気です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通 じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	日誌、個人簿を用い、情報共有による必要 に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケア をしている	毎食後、順番に一人ひとりに職員が立会 い、口腔状態を確認し口腔内の清潔保持に 努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理により、排泄のパターン、習慣性を位置づけ自立支援を行っている。	排泄リズムを把握して失敗が少ないよう気配りしています。本年度は専門業者による勉強会で排泄用品の正しい使用法を学び、本人にとっての快適さに役立っています。夜間は安眠を優先とした排泄支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康状態、排泄管理から便秘の状態を把握し、改善の為に必要に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1週間ごとに入浴順を変えたり、体調や気分的変化に対応して個々にそった支援をしている。	二名での介助が必要な人が増えましたが、一日おきに入浴することで“気持ちよさ”を味わってもらっています。入浴剤は数種類、肌への負担が少ない洗いタオルや刺激の弱い石鹸も準備しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調管理において個別に休息の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人簿に服薬情報を記載して職員に正しい知識を周知し、服薬の支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意な事、できる事を把握して日常生活やレクなどに楽しみごとを取り入れ、気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物、ドライブ等で季節を感じられる様、できる限り希望に沿った外出支援に努めている。	玄関先には近隣のスーパーから許可を得て貸し出されているというカートがあり、日常的な買い物支援が見て取れます。市内同一法人の事業所が企画するバザーや地域行事に出かけたり、桜や藤のお花見、地区の夏祭りではくじ引きや盆踊りを楽しんでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設でご本人の必要最小限のおこずかいを管理しているが希望等によりご家族に確認しながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意思を尊重し施設の電話も自由に使えるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には利用者が分りやすく、居心地のよい生活が出来る様、手作りの案内、貼り絵などで工夫を取り入れ、居心地よく過ごせるよう努めている。	玄関には家族や職員が持ち寄ったという色とりどりの花が花瓶に活けられ、共用空間の白い壁にはちぎり絵や折り紙の力作が映えます。手洗い、うがいを励行し、時間を決めた換気と加湿器の設置、夜勤者の徹底した清掃で感染症対策が慣行されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士が室内外に自由に過ごせる場所を個々に提供して思いを大事にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の希望を取り入れ、居心地を優先的に活かせるよう配慮を怠らないようにしている。	収納効率の高いロフトが備えられ、ベッド、洗面台の他は自由に持ち込まれ、愛着ある桐の箆箆やミニテーブルでその人らしい居室となっています。シーツやパジャマ洗濯の日を決めて、早番が毎日清掃を実施しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力を十分に理解し、シルバーカー、車イスや家具等の配置を考慮して安全な環境づくりに努めている。		